

令和6年度第1回海津市図書館協議会 会議録

日 時：令和6年6月25日（火）

15：00～16：02

場 所：海津市役所西館2階・2－3会議室

出席者：海津市図書館協議会委員7名

後藤秀樹、藤田佐喜子、里雄香織、和田聖子、後藤悦子、山田洋司、
山崎見歩

欠席者：塚本明日香

事務局：奥村市民生活部長、伊藤館長、藤岡

1. 市民生活部長あいさつ、委嘱状の交付

- ・市民生活部長があいさつし、異動等で委員を代わられた方（後藤委員、里雄委員）への委嘱状の交付は、机上に置いての交付とした。なお、後藤委員には会長として前任から引き継いでもらった。
- ・後藤会長にごあいさついただき、以後会長により議事を進めてもらった。

2. 議題

(1)海津市図書館の現状について

- ・事務局が資料に基づき、図書館の現状について説明し、会長より各委員に質疑を伺った。
- ・昨年度における図書館としての一番大きな事業としては、館外に読書ガーデンを整備したことである。昨年度末頃からボランティア団体の方が企画を考えてくださり、6年度に入ってから読み聞かせなどと合わせたイベントを開催してくださっている。図書館で勉強している学生の方が、昼食を食べに外に行かれたり、朝のウォーキング途中の方が休憩されたり、天気がいい日だと、スマートフォンを片手に座っている方たちもみえる。また、除草、樹木の剪定に関しては、皆さまに助けていただいている状態である。
- ・図書館への入館者等について、令和4年度に比べて5年度は少し減少しているが、令和3年度に比べると格段に増えてきており、新型コロナウイルスが落ち着きをみせたことにより増加したものと思われる。

◆読書ガーデンは、これで完成形か。

→これで完成形である。ただ、大江川の堤防に柵がないので、小さなこどもも遊ぶことを考えて、今後検討していく。

◆除草、樹木の剪定に関しては、皆さまに助けていただいている状態であると

のことですが、予算はどうなっているのか。

→昨年度まではシルバー人材センターに依頼していたが、今年度は工事の翌年度で地盤沈下などがあるといけないので、工事業者に依頼する予定をしていたが、予算がついていない状態である。そこで、本年度に関しては、さぼろ遊学館の会計年度任用職員が河川の草刈りに合わせてイベントの前に除草作業を行ってくれている。来年度は、なんとか予算化していきたい。

◆資料の中で、職員の人数が昨年度より減っているが、図書館業務はきちんと行えているのか。昨年度は兼務の職員だけだったが、専任の人がきたからなのか。

→昨年度までは、障がい者枠雇用の方が3人みえたが、今年は1人だけになっている。現状は、海津図書館だけなので私達正職員がカウンター業務に入って業務をしている状態である。だが、11月からこども図書館が開館すると、もっと厳しい状態になると予想している。

◆デジタル図書館のコンテンツが昨年度より大幅に減っているが、なぜだろうか。

→契約しているコンテンツが2年で期間満了になるものがあるので、導入してからちょうど2年経過し満了を迎えている。また、本年度分はまだ新しいものを導入していない段階なので、大幅に減っているようにみえている状態である。

◆今年の予算は前年度より33%も増えているので、喜んでいる。しかし、報道で海津市が消滅自治体として名前が挙がり、市民の数がどんどん減ってきて不安材料がある。もちろん図書館にお金を使ってもらい嬉しいが、人口増加につながることであればもっと嬉しい。

→令和6年度の増加理由は、こども未来館内のこども図書館分の建設費用の負担分が入っている。図書資料の購入金額としては、あまり変わっていない。こども図書館分が入っているので、来年の購入実績は少しは増加すると予想している。

(2)海津市こども図書館の開館について

・事務局が資料に基づき、海津市こども図書館の開館について説明し、会長より各委員に質疑を伺った。

◆こども図書館で本の貸出をすることにしてきて、本当にありがとう。これだけで、図書館協議会をやっている意味がある。本を置いているだけではだめである。こども未来館のサポーターズに入って活動していく予定であるし、今後も読み聞かせ等でこども図書館の奥に読み聞かせができる場所を作っていただいたので、活用していく予定である。

→こども図書館の読書支援の活動も併せて、願います。また、こども図書館の本の配架についても、読み聞かせボランティア団体の方にもお願いし、専門業者と一緒にやる旨説明する。

蔵書は今のところ平田図書館の蔵書約18,000冊、新規購入する本が約300冊で、雑誌も購入する予定がある。

◆ひと箱本棚ということをやっている図書館がある。海津市でやる予定はないか。内

容としては、個人や会社が月額使用料を払って、本を置く。その棚の責任はその人にあり、月刊誌を出している会社なら月刊誌を毎月替えにくる。個人なら、自分がおすすめしたい本を置くなど、結構やりたい人はいると思うが、どうだろうか。

→そんな利用方法があるとは、面白いアイデアで初めて聞く話なので、できるかどうかも含めて検討していく。

・・・調べた結果、ほとんどが民間でやっている図書館である。公共図書館は自分の図書館の蔵書でおすすめの本を紹介してもらう形なら少数存在する。公共図書館ではなく、公共施設の中の一部を民間図書館の形で団体の方に運営していただく方法でならまったく不可能ということではないと思われる。

◆設計会社がプランニングしてくるけれども、コンセプトや工夫をするとよい。こどもだけでなく、親も来る場所となる。何か考えているか。

→まだ、具体案は考えていない。何かいい案があれば教えていただけるとありがたいですが・・・

・ちょっと帯を作ってみるとか、夏休みに“こども司書体験”という企画をやっている図書館がある。

→海津図書館では、職場体験のときに、自分のおすすめの本として、1冊選んでポップを作成してもらうことをやっている

・学校では、自分が読んだおすすめの本としておすすめの本を発表し、壁に掲示されている。それを見かけると、つつい読みたくなり本を探すこともある。

「メディアコスモス」に行っていていいなと思ったのは、本を読んだ方が感想などメッセージを書き、それに対して司書もメッセージを返すというやり取りのメッセージボードがある。そのやり取りを足をとめて見て、この本読みたいなと思う。時短じゃなくて、SNSではでない感情になり、とても温かい感情をもった。

・本を読みに行くだけではなく、一緒にこども図書館を作っていこうという空気感を大切にしたい。こどもに軸足をおいた図書館なので、いろいろ挑戦できるのではないかと考えている。ボランティアが配架作業に1冊でもかかわることによって、図書館に愛着がわくのではないかという、自分たちが作った図書館ということで・・・。

◆前回の予定図通りに図書館の写真がなっているので、こどもにとって本棚が壁になってしまっている。それから、カウンターが外側を向いているのも図書館の中の様子を確認できないのではないかと。これは、昨年もお伝えしたと思いますが・・・。

→確かに昨年の会議録を見ると、その旨の指摘があった。できるかどうかを含めて確認する。

・・・本棚については、指摘どおり通路が縦と横でまっすぐに見えるように変更する。

カウンターについては、製造が始まっており、変更はできない。図書館内が狭いので、製造したカウンターを設置する場所がとれないので、変更なしでいく。